

第2回 Teachers' cafe REPORT

- チーム名 セレンディピティ
- 身につけさせたい力 自己決定力

「自分を正しく評価する力」

「自分に何ができるかを発見する力」

自己決定力を高めることは、自分の「みち」を決めることにつながる。つまり、自己決定力を高めることで、子どもが主体的に学ぶ人となる。さらに、これらの力の土台となる力は、「伝え合う力（コミュニケーション能力）」と、「認め合う力」であると考える。

今後、子どもたちが自分の進むべき「みち」を決めるに当たっては、自分だけで判断し、決めることは難しいことから、友だちや周囲の人々とやりとりし、高めていくために必要な力として位置づけたい。

●具体的な方法

小学校、中学校、高等学校の各段階においては、各教科・教科外の内容としての知識を活用するスキルを身につけさせること、それぞれの段階の子どもにとって、必要となる体験を積ませることが大切である。特に、この12年間での多様な体験を通して、子どもの視野を広げることは、子ども自身が「みち」を決めるために重要である。

●実行のための条件

体験機会の確保については、学校だけでは困難であり、家庭の協力や地域、社会と連携することが求められる。

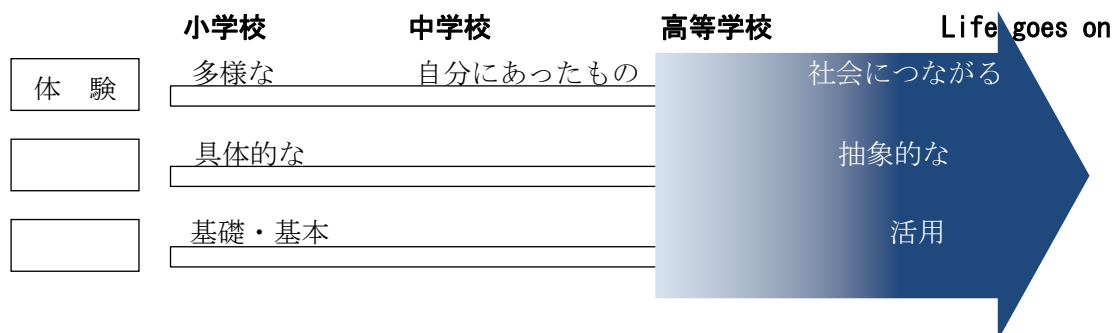
また、子ども自身が自分を評価する際の観点としては、他者との比較や知識の量だけに偏ることなく、知識をどのように活用することができるのかということや、自分の変容を意識することが大切である。

さらに、以上のことを実行するには、教員の資質の向上も重要な要因である。

●明日からすべきははじめの一步

子どもたちの学びの中に、「協働学習」を取り入れることが考えられる。教師対子どもとの関係だけでは生まれない「気づき」は、他の人との相違に関するものもあれば、自分自身の成長に関することもある。子ども同士が協働して学び合う活動を、授業等の中で生かすことが大切と考える。

また、学習を教師自身が楽しむことが、子どもが学びを楽しむことにつながる。教材研究、授業、子どもとのやりとりなど、教師自身が楽しみながら取り組みたい。



●感想など

各グループの発表では多様な考えが出されたが、共通の考えとして「基礎となる学力」や「考える力」の重要性が示されたと感じた。校種の違いがあっても、参加した先生方の教育への思いを強く感じ、自分の立場から子どもに関わっていきたく改めて考える機会となった。